

1. 大豆品種‘サチユタカ’の奨励品種採用			
[要旨] 県南部から中北部に適する、 <u>安定多収</u> 、耐倒伏性、豆腐の <u>加工適性</u> に優にれた有望な中生品種‘サチユタカ’を奨励品種として採用する。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	電話0868-57-2758

[背景・ねらい]

岡山県の奨励品種であるタマホマレは栽培特性は優れるが、最も需要の多い豆腐への加工適性が劣る。また、加工適正が優れるトヨシロメ、銀大豆は栽培地域が限られ、生産量の増大が難しい。そこで既存品種の欠点を補うため採用する。

[成果の内容・特徴]

1. ‘サチユタカ’は九州農業試験場において‘フクユタカ’×‘エンレイ’の交配組み合わせ後代(F2)に「エンレイ」を交配して、育成された。平成9年度より‘九州131号’として、大豆奨励品種決定調査に供試し、平成11～12年度は現地試験に供試した。
2. 開花期はタマホマレより3～4日遅く、成熟期はほぼ同時期である(表1)。
3. 主茎長はタマホマレよりやや短い。
4. 子実収量はタマホマレよりやや多収である(表1)。
5. 子実(百粒重)はタマホマレより大きい。
6. 蛋白含量はタマホマレより高く、脂肪含量はやや低い(表3)。
7. 紫斑病の発生はタマホマレよりやや少ない。
8. 加工適性は豆乳固形分が多く、破断強度が大きい。(表4)

[成果の活用面・留意点]

1. 成熟期の落葉が斉一なため、コンバイン収穫の際、茎葉汁による汚損が少ない。
2. 着莢節位がタマホマレと同様にやや低いため、密植にして高くする。
1. ウイルスによる褐斑粒が発生する場合がありますので、生育初期のアブラムシの防除を徹底する。

[具体的データ]

表1 農業試験場 北部支場（上段）と本場、（下段）における試験成績

系統名	試験年次	開花期	成熟期	生育中の障害			主茎長	主茎節数	分枝数	全重	子実重	標準粒重	百粒重	障害粒程度			品質
		(年)	(月日)	倒伏	刈病	立枯	(cm)			(kg/a)		(%)	(g)	紫斑	褐斑	裂皮	
九州131号	9~12	8.4	10.27	無	微	無	63	16.8	3.8	73.1	37.8	109	33.4	少	微	微	中上
タマホマレ	9~12	8.1	10.27	微	無	無	75	17.7	4.5	73.0	33.8	97	28.7	中	無	微	上中
トヨシロメ	9~12	8.10	11.5	微	無	微	78	18.2	4.5	77.5	34.7	100	33.0	中	無	微	上下
九州131号	11,12	8.04	10.30	無	無	無	60	17.1	6.0	77.4	42.3	127	35.9	少	無	多	1
タマホマレ	11,12	7.29	11.04	無	無	無	71	17.5	5.2	72.4	36.9	110	30.8	少	無	中	2
トヨシロメ	11,12	8.07	11.08	微	無	無	77	18.4	7.0	73.6	33.3	100	37.1	少	無	中	1

表2 現地試験成績

場所名	系統名	試験年次	開花期	成熟期	生育中の障害			主茎長	主茎節数	分枝数	全重	子実重	標準粒重	百粒重	障害粒程度			品質
		(年)	(月日)	(月日)	倒伏	刈病	立枯	(cm)			(kg/a)		(%)	(g)	紫斑	褐斑	裂皮	
玉野市	九州131号	11	8.16	10.29	無	無	無	36	14.2	5.3	52.2	29.0	78	29.3	無	無	微	上下
	タマホマレ	11	8.12	11.2	無	無	無	35	14.1	5.2	48.6	27.8	75	25.2	無	無	無	上中
	トヨシロメ	11	8.18	11.5	無	無	無	40	16.0	5.7	64.2	37.3	100	27.9	無	無	無	上上
鏡野町	九州131号	11,12	8.9	10.26	微	中	無	64	18.0	4.3	55.6	27.4	122	32.1	少	甚	微	中中
	タマホマレ	11,12	8.6	10.29	微	無	無	67	17.8	4.5	50.9	21.9	96	29.5	中	無	微	中上
	トヨシロメ	11,12	8.12	11.13	少	無	無	69	17.7	4.8	53.1	22.9	100	33.9	多	無	無	中中
矢掛町	九州131号	12	7.21	10.28	無	-	-	59	15.3	3.7	44.2	23.7	75	37.6	少	微	少	規外
	タマホマレ	12	7.21	11.03	無	-	-	75	17.4	3.9	41.2	23.5	74	31.0	中	無	無	中下
	トヨシロメ	12	7.21	11.6	無	-	-	82	19.2	4.2	54.3	31.6	100	35.9	中	無	微	中中

表3 子実成分

産地名	九州131号		タマホマレ		トヨシロメ	
岡山北部（標播）	45.7	18.9	39.4	22.8	43.0	18.5
岡山本場	44.4	-	39.1	-	41.5	-
現地・鏡野町	44.5	20.1	38.9	22.6	41.6	19.3
現地・矢掛町	45.6	19.5	38.6	22.9	43.9	18.5

注) 大豆は平成12年産、分析は近赤外分光法で九州農試において実施、蛋白係数は6.25。

表4 豆乳・豆腐加工試験成績

	豆乳pH	豆乳比重	豆乳固形分	破断強度		色調	
			(%)	g/cm ²	L	a	b
九州131号	6.77	1.020	12.5	98.0	92.4	-2.44	12.3
タマホマレ	6.89	1.018	10.7	38.5	90.6	-1.17	13.0

作成条件：Brix14%の豆乳を作成。基準量のにがりを使用した。

[その他] 試験研究課題名 : 大豆奨励品種決定調査
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 平成9年~12年
 関連情報等 : なし